

講義年月日 2005年7月13日(水)

講師 梁瀬三千代氏(慶應義塾大学三田メディアセンター課長代理)

テーマ 「人文社会科学系大学図書館の選書について」

1. 大学の中の図書館

慶應義塾は一貫教育校であり、大学の図書館としては5つのメディアセンターから成り立っている。三田・日吉・信濃町・理工学・湘南藤沢の5施設では各々独立採算制をとっており、それぞれのキャンパスに合った特徴や必要条件を具備しての運営がなされている。

2. 予算

国公立大学図書館の全体に占める図書費と図書資料費の実態調査をみると(*1)、2000年と2004年で比較検証の結果、いずれも減額傾向にある。

三田キャンパスでは、平成15年度およそ7億8千万円(図書館予算3億7千万円及び学部予算4億1千万円)という予算がついている。良質な資料収集には予算は必須であるが、併せて予算消化の問題を抱えることとなる。

(*1) 社団法人 日本図書館協会 HP

「大学図書館集計『日本の図書館 - 統計と名簿 - 』2000年版より」
(<http://www.jla.or.jp/2000.htm>)

「大学図書館集計(2004年)」(<http://www.jla.or.jp/2004univ.html>)

3. 学部と図書館

三田キャンパスでは、文学部18専攻、経済学部、法学部(政治学科、法律学科)、商学部、研究科(文・経済・法学・商学・社会学・法務)を有する。各学部には図書予算が与えられ、教員で構成される図書委員会と図書館員で構成される委員会を置くこととなっている。2005年度より、学部予算のうち、法務研究科図書予算については、図書館員にも選書権が与えられた。このことは、教員と図書館員の信頼関係の上に成り立つものであると思われる。

4. 選書ということ

以下の3つの切り口から「選書」を考えてみる。

何のために選書するのか…今誰かに使って欲しいから、将来的に必要性を感じられるから。

誰が何をどこまで選書できるのか…(慶應義塾大学では)全員で、図書館予算の範囲で、図書・雑誌・データベース・貴重書(推薦文など必要)等幅広く選書できる。

何を基準に選ぶのか…「選書基準」を設けている。収書方針をWEB上公開している大学(中央大・独協大・明大・法政大等)もあり。HP参照のこと。

5. 選書基準

以下の観点から選書基準を考える。

- ・資料の種類から～ 学習用図書(入門書・基本書)、教育用図書(一般書・教養書)、研究用図書(専門書)、その他(レファレンス・実務書)など
- ・媒体に応じて～ 冊子体、AV 資料、電子媒体(マイクロフィルム、デジタル資料)
- ・継続の必要性から～ 雑誌、新聞、データベース
- ・保存か除籍か～ 重複資料、媒体変換

三田メディアセンターの選書基準はシラバスを基に構成され、主題別となっている。その際、学問の領域 選定方針 特記事項 を必記としている。

時代の流動性を考慮して、選書基準も逐次見直す必要があるので、差し替え形式をとっている。

6. 選書ツールと方法

各々の資料に対する選書ツールと方法は以下の通りである。

図書～ 『ウィリー出版情報』などの冊子体、インターネット、書店からの紹介 選定

雑誌～ カタログ、WEB、利用者からの推薦 委員会

データベース～ 書店からの紹介、契約会社からの紹介 トライアル 委員会

高額資料～ 書店からの紹介、教員からの紹介 委員会

7. 問題と課題

スピード、価格、メンテナンスを含むサービス、カード決済の可否等の点からも購入方法の確認を行う必要がある。大学の使命を念頭に置きながらのコレクションマネジメントを行う必要がある。

蔵書構築に於いては、伝統的資料を継承していく事や蔵書に独自性を持たせる事も重要事項と考え、それを踏まえての選書が必須である。その館の選書方針に見合わない資料に関しては、地域図書館や ILL サービスでの相互貸借の利用を促進させることで解決可能である。

保存スペース不足の問題は、重複資料の除籍や、他機関(小規模の大学、海外の大学)への寄贈によって解消できる部分もある。

最後に・・・

蔵書を総合的に見て、広い視野からの良質な資料収集を心がけることが大切であり、それは実践の中から経験を積み重ねて得られるものである。